

博士課程

2019

授業科目 〈シラバス〉

沖縄県立芸術大学大学院
芸術文化学研究所

授業科目〈シラバス〉について

この「2019 授業科目〈シラバス〉」は、平成 31 年度に大学院芸術文化科学研究科で開講される（一部休講科目を含む。）授業科目について、各担当教員から提出された授業科目〈シラバス〉をまとめたものです。履修計画や年間の学習計画を立てる際に利用してください。

なお、履修案内については、別冊「履修便覧」に記載しています。

1. 集中講義科目については、単位数・学期欄の（）内に表記されています。
2. 担当教員名欄には、科目の指導担当教員全員の氏名が記載されています。
3. 担当教員名欄の（客）は客員教授を、（非）は非常勤講師を表します。
4. 履修上の留意点には、履修の条件や注意事項のほかに、履修にあたり心掛けるべき点、学生への要望等が記載されています。

大学院芸術文化学研究科開設授業科目一覧表

科目コード	科目名	単位	学期	履修年次	授業区分	ページ
90112	芸術表現総合比較研究 I	2	通年	1・2	演習	1
90113	芸術表現総合比較研究 II	2	通年	2・3	演習	2
90228	比較美学研究A	2	後期	1・2	講義	3
90229	比較美学研究B	2	前期(集中講義)	1・2	講義	4
90230	比較芸術学特殊研究A	2	前期	1・2	講義	5
90231	比較芸術学特殊研究B	2	後期(集中講義)	1・2	講義	6
90242	日本芸術批評史研究A	2	前期	1・2	講義	7
90243	日本芸術批評史研究B	2	後期(集中講義)	1・2	講義	8
90244	東洋芸術批評史研究A	2	前期	1・2	講義	9
90245	東洋芸術批評史研究B	2	前期(集中講義)	1・2	講義	10
90234	西洋芸術批評史研究A	2	後期	1・2	講義	11
90235	西洋芸術批評史研究B	2	前期(集中講義)	1・2	講義	12
90216	民族工芸論研究	4	通年	1・2	講義	13
90217	映像論研究	2	前期(集中講義)	1・2	講義	14
90246	日本芸術文化学研究A	2	前期	1・2	講義	15
90247	日本芸術文化学研究B	2	後期	1・2	講義	16
90248	民族芸術文化学研究A	2	前期	1・2	講義	17
90249	民族芸術文化学研究B	2	後期	1・2	講義	18
90251	東洋芸術文化学研究A	2	前期	1・2	講義	19
90252	東洋芸術文化学研究B	2	後期	1・2	講義	20
90250	民族芸術学特論	2	後期(集中講義)	1・2	講義	21
90238	東洋工芸史研究	4	通年	1・2	講義	22
90220	西洋音楽史研究	4	通年	1・2	講義	23
90221	日本音楽史研究	4	通年	1・2	講義	24
90223	民族音楽学研究	4	通年	1・2	講義	25
90224	琉球音楽論研究	4	通年	1・2	講義	26
90225	民族舞踊学研究	4	通年	1・2	講義	27
90226	民俗芸能論研究	4	通年	1・2	講義	28
90227	琉球楽劇論研究	4	通年	1・2	講義	29
90239	楽曲分析研究	2	後期	1・2	講義	30
90240	アートマネジメント研究	2	通年	1・2	演習	31
90241	芸術学研究	2	通年	1・2	講義	32

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
90228	比較美学研究 A (奇数年度開講)	2単位 後期	1・2	講義	喜屋武 盛也

■テーマ Form (形式) の理念史

■授業の概要

形式 (form) という言葉は学術においてだけではなく社会の様々な場面でも登場するが、芸術を語るうえでも再頻出の言葉のひとつと言ってもよいであろう。しかし、この語の意味するものがあまりに広範に及ぶため、明確に捉えることは困難である。対応する英語 Form を見ても明らかのように、眼前に展開される具体的な「かたち」と結びつくと同時に、極めて抽象的なものを言い当てようとする。本講義は、形式およびそれと深くかかわる言葉の概念史をたどることで、芸術思想の理解の一助とするものである。

■到達目標

- ・形式という語について西洋思想史という観点から理解し、説明することができる。

■授業計画・方法

1. ガイダンス/形式という語について
2. 形式の歴史を語る困難性
3. 古代の形式理論 1 詩と絵画
4. 古代の形式理論 2 モルフェ、エイドス
5. 古代の形式理論 3 エンテレケイア
6. 中世・ルネサンスの形式理論 1 実体形式と美
7. 中世・ルネサンスの形式理論 2 ディセーニョ
8. 中世・ルネサンスの形式理論 3 素描と色彩
9. 近代の形式理論 1 感覚と概念：モリヌクス問題を発端に
10. 近代の形式理論 2 形式と内容
11. 近代の形式理論 3 モルフォロギア
12. 形式主義の系譜
13. 構造主義とフォルマリズム
14. 「象徴形式」再考
15. 回顧と展望
定期試験は実施しない。

■履修上の留意点 (授業以外の学習方法を含む)

- ・テーマに即した内容について、参考文献等を読んで、認識や思索を積み重ねておくこと。

■成績評価の方法・基準

- 方法 レポートを課す (100%)
- 基準 到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。
芸術文化学研究科 (博士課程) の学生には、専門家としての独創的かつ学術的な達成を求める。

■教科書・参考文献 (資料) 等

- 教科書
- テキスト
- 参考文献
 - ・タタルキェヴィッチ「形式 (美学史における)」荒川幾男ほか日本語版編集『西洋思想大辞典』平凡社、1990 (開架参考 130/Se19/1-5)
 - ・加藤尚武『「かたち」の哲学』岩波現代文庫
 - ・シモンドン『個体化の哲学』法政大学出版局